

第3回幹事会

■ 日時:令和8年3月30日(月)10:30~12:00

■ 場所:四日市商工会議所3階大会議室(オンライン併用)

■ 出席者(敬称略)

(有識者)

東京大学 大学院 工学系研究科 教授 村山顕人

名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授 松本幸正(オンライン)

早稲田大学 理工学術院 教授 有賀隆(オンライン)

(交通関係者)

近畿日本鉄道(株) 鉄道本部 名古屋統括部 施設部長 三重 和宣(オンライン)

近畿日本鉄道(株) 鉄道本部 名古屋統括部 施設部 工務課 主査 牧野修幸(随同行、オンライン)

三重交通(株) 取締役 高田和昭

三重交通(株) 企画部 部長 小瀬古恵則(随同行)

(三重県タクシー協会北勢支部)(株)三交タクシー 代表取締役社長 内山宜哉

(商工関係者・大規模権利者・事業展開企業)

(株)近鉄百貨店 四日市店 営業推進部 マネージャー 木室康弘(オンライン)

四日市商工会議所 専務理事 山下二三夫

近鉄グループホールディングス(株) 総合政策本部 企画推進部 課長 森有一郎(代理)

近鉄不動産(株) 名古屋事業本部 賃貸事業部 部長 吉田健(オンライン)

(株)シー・ティー・ワイ 取締役 営業部 部長 伊藤秀明

(株)シー・ティー・ワイ 営業部 次長 山本龍太郎(随同行)

(株)三十三銀行 営業本部 営業企画部 営業企画課 課長 白井智博(オンライン)

(株)三十三銀行 営業本部 営業企画部 営業企画課 企画役 森田宏(オンライン)

(株)三十三銀行 営業本部 営業企画部 営業企画課 上席主任 三浦大樹(オンライン)

(行政)

三重県 県土整備部 都市政策課 副課長 雲匡司(オンライン)

四日市市 副市長 荒木秀訓

(賛助会員)

(株)日建設計 都市社会基盤部門 CM測量部長 中村出

(株)日建設計 都市社会基盤部門 CM測量部 アソシエイト 河野正雄(随同行、オンライン)

(株)日建設計 都市社会基盤部門 CM測量部 アソシエイト 豊島香須弥(随同行、オンライン)

早稲田大学 理工学術院 講師 小松 萌(オンライン)

(株)マクニカ スマートシティ&モビリティ事業部 スマートモビリティ事業推進部 部長 福田泰之(オンライン)

(株)マクニカ スマートシティ&モビリティ事業部 スマートモビリティ事業推進部 担当 奈良岡龍一(現地)

(株)マクニカ スマートシティ&モビリティ事業部 CPSソリューション開発部 担当 高木克真(随同行、オンライン)

(株)マクニカ スマートシティ&モビリティ事業部 CPSソリューション開発部 担当 矢部維(随同行、オンライン)

(オブザーバー)

国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路交通施設安全対策官 高濱康亘(オンライン)

国土交通省 都市局 街路交通施設課 課長補佐 渡邊枢(随同行、オンライン)

国土交通省 都市局 街路交通施設課 二輪駐車場係長 村川達郎(随同行、オンライン)

国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長 後藤直紀(オンライン)

国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課 課長 江川晃平

国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課 専門官 田中秀和(随同行、オンライン)

国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課 調査員 竹内貴大(随同行、オンライン)

国土交通省 中部運輸局 三重運輸支局 企画調整担当 首席運輸企画専門官 森 慶之(オンライン)

■ 次第

1. 開会

2. 議題

- ・議題 第1号 幹事会会員の変更について(報告)
- ・議題 第2号 今年度のスケジュールについて
- ・議題 第3号 ワーキンググループ(WG)の実施報告
- ・議題 第4号 実行計画の進捗について
- ・議題 第5号 スマートシティ実装化支援事業の報告・議題 第1号 今年度のスケジュールについて
- ・追加資料 四日市SRC実行計画について

3. 閉会

■ 内容

【1.開会】

<進行>

本日は、ご多用中にも関わらずご出席いただき、ありがとうございます。オンラインでご出席いただいている方につきまして、音声は聞こえておりますでしょうか。ただ今から「四日市スマートリージョン・コア推進協議会」の令和7年度第3回幹事会を開会いたします。本日の会議を進行させていただきます、四日市市政策推進部政策推進監の中尾です。よろしくお願いいたします。

はじめに、お手元の資料をご確認ください。全部で6種類の資料と2種類の別添資料をお配りしています。過不足ありましたら、挙手にてお知らせください。

一点お願いがございますが、皆様ご発言いただく際には、お手元のマイクのスイッチをオンにしてくださいまして、ご発言が終わりましたらオフにさせていただきますようお願いいたします。

それでは、会議の開催にあたりまして、本協議会の会長であります荒木副市長よりご挨拶をさせていただきます。

<荒木副市長>

皆様、おはようございます。本協議会の会長を務めさせていただいております四日市市の副市長の荒木でございます。本日は年度末のご多用の中ご出席いただきましてありがとうございます。スマートリージョン・コア推進協議会の幹事会としては、本年度で3回目、通算で15回目の開催です。本日の議事次第は、幹事会会員の変更、今年度のスケジュール、各ワーキンググループからの実績報告、スマートリージョン・コア実行計画の進捗、そして今年度で最終となります実装化支援事業の進捗報告を予定しております。

さて、本市では中央通り再編事業と連携を図り中心市街地の魅力及び回遊性を向上させるため鶉の森公園、諏訪公園の再整備を進めております。令和6年度から実施しております鶉の森公園の第一期事業は本年3月12日に供用を開始したところです。今回の整備により、園路の高さを歩道に合わせたことで、園路と歩道が一体的な空間となり開放的で通行しやすくなっています。また、敷地内の大半に透水性のインターロッキングを採用し雨水の流出抑制対策も図っています。暖かい季節となってきましたので皆様ぜひ足を運んでいただければと思います。

そして、中央通り再編事業に合わせて取り組みを進めてきましたスマート化につきましては、国交省様より支援いただいておりますスマートシティ実装化支援事業の4つの事業が、今年度でいよいよ最終の実装となってまいります。本日は実装化される事業の一つである沿道空間利用マネジメントシステムにつきまして早稲田大学様よりデモンストレーションの予定もございます。これまで中央通りの再編事業の整備完了に合わせて各種取り組みの実装、本格運用開始を目標に皆様と連携して事業を進めてまいりました。令和8年度につきましては、本市のスマートシティの取り組みを市民の皆様幅広く知っていただけるような広報活動にもさらに力を入れて取り組んでいく所存です。令和8年度で四日市市スマートリージョン・コア実行計画が最終年度を迎える一方、令和9年度以降も引き続き検討が必要な取り組みもございますので、計画を延長しその後の取り組みについても本協議会の場で皆様からご意見をいただき、今後も本市のスマートシティ実現に向けまして、引き続き皆様と共に取り組みを進めていきたいと考えており、本日も皆様と忌憚のない意見交換をさせて頂ければと考えております。簡単ではございますが、開会にあたりまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

<進行>

ありがとうございました。

続きまして、本来であればご出席の委員・企業・団体の皆様のご紹介をさせて頂きたいところではございますが、時間の関係もございますので、別添の出席者名簿に換えさせていただきます。

【2.議事】

<進行>

本日の議題は、資料1:幹事会会員の変更について、資料2:今年度のスケジュール、資料3:ワーキンググループ(WG)の実施報告、資料4:四日市スマートリージョン・コア実行計画フォローアップ2025、資料5:スマートシティ実装化支援事業の報告、追加資料として四日市SRC実行計画について、の順番で議事を進めさせていただきたいと思います。それでは、これ以降の進行につきましては村山座長にお願いしたいと思います。村山座長、よろしくお願いいたします。

<村山座長>

承知いたしました。皆さんおはようございます。本日もよろしくお願い致します。まず初めの議題は、幹事会会員の変更についてです。ご説明は四日市市政策推進課様よりお願いいたします。

<四日市市政策推進課>

(資料1に基づいて説明)

<村山座長>

ご説明ありがとうございました。幹事会会員の変更につきまして、ご意見やご質問のある方は挙手の上ご発言いただけますでしょうか。

ご質問等無いようですので、続いて次の議題2:今年度のスケジュールについてです。ご説明は日建設計様よりお願いいたします。

<日建設計総合研究所>

(資料2に基づいて説明)

<村山座長>

ご説明ありがとうございました。本日が3月30日ですので一年間こういうことをやってきましたという整理をしていただきました。今年度のスケジュールについて、何かご意見やご質問がある方は挙手の上、ご発言をお願いいたします。

ご質問等無いようですので、次に議題3:ワーキングの実施報告です。前回の幹事会以降に各ワーキングで実施された会議の内容をそれぞれのワーキンググループの代表企業様からご説明いただこうと思います。

はじめにデータプラットフォームワーキングの代表であるシー・ティー・ワイ様からお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

<シー・ティー・ワイ>

(資料3-1に基づいて説明)

<村山座長>

ご説明ありがとうございました。続きまして、モビリティワーキングの代表でありますマクニカ様からご説明をお願いいたします。

<マクニカ>

(資料3-2に基づいて説明)

<村山座長>

ご説明ありがとうございました。この3年間でそれぞれのワーキングで大変充実した活動をされ、最後は2つのワーキングがうまく連携する形でこの3年が終えられたということはとても良かったと思います。それ

ではまずはデータプラットフォームワーキングの説明について、ご質問のある方は挙手の上ご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。

では私から一つご質問です。資料3-1の12ページに今後の取り組みも含めて整理していただいて、令和8年度は構想の深化とあります。先ほどのご報告でワーキングを通じて本当に様々な課題とアイデアが出されたと思いますが、特に来年度以降集中的に取り組む課題やあるいは深化するアイデアというものがあ程度見えていましたら、ぜひ教えていただきたいのですがいかがでしょうか。

<シー・ティー・ワイ>

いろいろな意見をいただいたのでどれにしようかというのがありますが、総じて言いますとやはり既にあるものを知らなかったり、予定されているものの認識が皆に無かったりというところがあります。実際にちゃんと整備されているものをより便利に使ってもらうためには、まず情報が不足しているのかなという点がありますので、そういった視点で設計していくべきと考えております。例えばインフラとしてここにコンセントがあるということも一つですし、いろんな樹木がある際にそこに寄ってくるどんな虫や鳥がいますよといったことも幅広く知ってもらうことが必要なのかなと思います。

<村山座長>

どうもありがとうございました。他にいかがでしょうか。

それではモビリティワーキングの方のご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。

<四日市商工会議所>

資料3-2の14ページで、店舗情報の掲載が思った程ではなかったのがアクセスの増加が見込めなかったということですが、これは店側の問題ですか。または周知ができていなかったのか、何が要因と考えているのでしょうか。

<マクニカ三重交通>

ご質問ありがとうございます。商工会議所に属している商店街の方々には非常にご協力いただきまして、掲載するという直前まで進んでいました。ただ、立ち返って、そもそもこのMaaSとは何のために存在しているのか、というところを四日市市さんと考えました。というのは、やはりMaaSとは移動に対して交通サービスをお届けするものであるから、商店を一店舗ずつ掲載していくことが正解なのかということを考えた時に、やはりそれは正解ではないかもしれない。確かにKPIのPV数を達成するためにはそれが近道だったのかもしれませんが、改めて何があるべきなのか、それをMaaSで行わなければいけないかというところを立ち返った結果として、掲載を見送ったという次第でございます。

<四日市商工会議所>

要するに店舗を入れるという話ではなくて、違う方向に転換をしたという理解でよろしいですね。

<マクニカ三重交通>

はい。一旦今年度は別の方向を取りました。

<村山座長>

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

それでは私から、資料3-2の5ページの自動運転の実証実験の中で、中央通りが今再編事業の中で物理的にどんどん改善されているので、それが自動運転に対してもすごくプラスであったという評価をいただいて、中央通りの再編の構想段階から関わっている者としては大変ありがたく思いました。逆にもう少しここは改善できるのではないかなど、JR四日市駅方面に向けた整備にあたり、まだ細かい設計が変更可能かと思っておりますので、もし気づいた点や改善点等がありましたらぜひお伺いしたいのでお願いします。

<マクニカ>

弊社が発言する内容ではないかもしれませんが、2つございます。

1点目は、デザインとの関係の難しさがありますが、ウォークラブルな中央通りをデザインされていると思いますが、そのウォークラブルな故に人が車道にすぐ飛び出してくるリスクがあり、これは自動運転に対して非常に不利な方向になります。かといって、車道と歩道をシームレスに結ぶというところがデザインのコンセプトになっているので、そこに私たちのテクノロジーがどこまで追いつくかということ、デザインがどこに向かっていくのかということとのすり合わせかと思えます。歩行者を優先するのか、自動運転のクオリティを優先するのかということ、ここがより難しさかなと思えます。

2点目は、中央通りのところはウォークラブルになると思うのですが、ウォークラブルとはその施設内に入ったり、モビリティに乗るところも心理的なハードルがなくなり、シームレスに移動できるということが一つ重要な点だと思っています。せっかくハード側で中央通りにおけるシームレスな移動を可能にしていたのに、自動運転に乗るのは少しハードルが高くなってしまおうとなると、全体設計としてウォークラブルな街づくりではないかなと考えます。どういうサービスデザインをしたら心理的にもシームレスな中央通りになるのか、という点は一緒に協議していきたい点かなと思っています。

<村山座長>

ありがとうございました。実際自動運転の車に乗るということを想定しながらデザインを考えるというのはなかなか難しいものですから、またいろいろとご意見いただきながら進めていければと思いました。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。また最後に皆様からご発言いただく機会を設けますので、ワーキングに関することで言い忘れたことがありましたら、最後の方をお願いいたします。

それでは、次の議題5:四日市スマートリージョン・コア実行計画フォローアップ2025と、議題5:スマートシティ実装化支援事業の報告につきましては、共通する内容が多いのでまとめて説明をお願いしたいと思います。ご説明は日建設計様よりお願いいたします。

<日建設計総合研究所>

(資料4,5に基づいて説明)

(「シェアまちよっかいちシステム」に係る部分は早稲田大学のデモンストレーション)

<村山座長>

ありがとうございました。それでは、資料4および資料5の報告について、ご意見やご質問のある方は挙手の上、ご発言をお願いいたします。

非常によくまとまっていますし、特に実行計画フォローアップについては、最初12の取り組みということでかなり幅広く始めて試行錯誤が続きましたけれども、3年間である一定の成果が出て、それが市民に対しても分かりやすくまとめていただいて大変ありがとうございます。特にご意見ないようですので、本協議会の今後について事務局からご説明をお願いいたします。

<四日市市政策推進課>

事務局を務めております政策推進課の矢澤と申します。先ほど資料4で実行計画全体のフォローアップのご説明がありました。追加資料でその全体の状況をまとめたものを別紙で用意致しました。来年度は実行計画の最終年度ということで、それぞれ取り組みをやっていくわけですが、中でもこの赤枠で囲っているスマートバスやモビリティ、先ほど早稲田大学様からご説明いただいたパブリックスペースや、データプラットフォーム、こういったものを中心にハード整備も合わせて来年度以降も引き続き取り組んでいく必要があると思っております。また、他の取り組みについても、実装したから終わりということではなく、引き続き運営体制や、事業の効果検証も必要と考えております。このため、計画終了後の令和9年度以降についても、四つの取り組みが中心になってくると思いますが、引き続き、目標を定めながら、この協議会の場を活用しつつ皆様のご意見をいただ

きながら進めていきたいと考えております。この中央通り再編事業もまだ終わっておりませんし、バスタ四日市の供用開始というのも見えてきております。街の様子も変わっていく時期でございますので、その時々進捗状況を見極めながら、この協議会の体制も合わせて柔軟に考えていければと考えております。実行計画と協議会の考え方といたしまして、事務局案をご説明させていただきました。

<村山座長>

ご説明ありがとうございました。ただ今、事務局から本協議会の今後についてご説明をいただきました。

それでは、本日ご参加いただいている皆様から、本協議会の今後について、あるいは今日言いそびれているその他のことでも構いませんので、ご意見、ご感想をお聞かせいただければと思います。大変恐縮ですが、順番にお願いしたいと思います。まずは三重交通の高田様からお願いいたします。

<三重交通>

三重交通の高田でございます。今日お話をずっと聞かせていただきまして、過去数年を振り返って、すごく具体的な目に見えるような形になって、どんな形をイメージするのかというところが少しでも明確になったかなという気がしております。本当にありがとうございました。最後のこの追加資料についてですが、「待ち時間や移動時間を楽しめるモビリティの導入」のKPIが高速バスの利用者数となっています。このイメージがよくわからないのですが、どんなイメージで設定されたのかというところを教えてくださいたいと思います。

<村山座長>

これは日建設計総合研究所さんか四日市市さん、ご回答をお願い致します。

<日建設計総合研究所>

私が代わりにお答えしますと、今後バスタに様々なバスが集中的にサービスされるということで、高速バスの利用者の方もより利便性が高まって利用者数が増えるということが想定されます。どれだけ公共交通を使っていたかという指標の一つとして路線バスだけではなくて高速バスも見ていこうというような趣旨でKPIとして設定をしたという経緯がありますので、KPIとしては、高速バス利用者数だけでなく路線バス利用者数もここには含まれるべきかと思っております。

<三重交通>

イメージとしては、路線バスも高速バスも一緒に分ける意味はないかなと思いました。分けて検証する場合、今後高速バスも増えるかもしれませんが、この令和8年の目標300人/日というのは路線の有無で全然変わってきますので、目標としては達成するのが難しいのかなという感じもしております。

<村山座長>

ありがとうございます。取り組み内容とKPIの関係については、もう少し柔軟に作ってもいいかなと思います。ご意見ありがとうございました。それでは三交タクシーの内山様、よろしくご依頼致します。

<三交タクシー>

三交タクシーの内山です。追加資料の表についてですが、取り組み継続のところ以外の内容についても状況の変化に応じて継続的に取り組まれるということでしたので、ぜひそのように進めていただければと思います。

<村山座長>

どうもありがとうございます。それでは四日市商工会議所の山下様、お願いします。

<四日市商工会議所>

追加資料の6番「災害に強い中央通り」についてですが、民間の所有するサイネージを使って行政と連携し

て災害対応ができるような形にするという理解ですが、これはどういう状況で実施するのかという点をしっかり進めていただきたい。要するに、以前雨が降っていても分からないということもあったわけで、もしこれで見えていけばだいぶ違ったのではないかと思いますので、これが実際に使えるように期待をして申し上げますのでよろしくお願い致します。

<村山座長>

どうもありがとうございます。それでは近鉄グループホールディングスの森様お願いいたします。

<近鉄グループホールディングス>

近鉄グループホールディングスの森でございます。感想にはなりますが、資料3-2にございました四日市版MaaSのポータルサイトのアクセス数というところで、実は弊社も民間事業者としてイベントチケットの販売を主にしているMaaSアプリがありますが、大阪関西万博の時にアクセス数、利用者数、登録者数がかかなり増えたのですが、やはり万博が終わった瞬間にアクセス数等が激減しました。万博をきっかけに、アプリの利便性をもう一つPRできなかったということが反省点となっております、四日市版MaaSにつきましても、来年度以降もアクセス数等をどう増やしたらいいのかという点について、ワーキングの中でも引き続き深く検討していただけたらと思っております。

<村山座長>

どうもありがとうございます。それではシー・ティー・ワイの伊藤様お願いいたします。

<シー・ティー・ワイ>

シー・ティー・ワイの伊藤です。全体を通して、このハードの中央通りの再開発に対して、市民の方にとっての利便性を高めるというのは絶対条件だと思うんですけども、やはりこれからバスタができた時分の市外から来た方と市民の方の利便性に、相違が出るのかなと思っております。やはりこの3年いろいろな実証の中でも、どんどん時代の流れが早くなり、これからまた近未来に対しても、何が便利で何が不便かというのもどんどん変わっていくと思いますので、弊社としてもアンテナを張って、その時代に対しての便利さというところをキーワードにして展開できればなと思っております。私も四日市の市民ですが、市民の方の不便と市外から来た方の不便には違いがあり、それはいろんなカテゴリーで、例えば災害においても、観光で来る方も、仕事で来る方でも違いがあるので、ワーキングの方でも意識をして考えていきたいと考えております。

<村山座長>

どうもありがとうございます。それでは日建設計の中村様お願い致します。

<日建設計>

ありがとうございます。デジタルインフラ台帳整備を担当しております、日建設計の中村です。先ほどご説明いただいた通り、デジタルインフラ台帳については、今年度中央通りの工事完了済みの範囲において整備することができました。令和8年度、9年度、10年度も工事が続いてまいりますので、工事の進捗に合わせてデジタルインフラ台帳の整備は引き続き取り組んでいきたいと考えております。また、このデジタルインフラ台帳は、上下水道、電気、ガス、通信の埋設物が一度に確認できるという非常に画期的な取り組みで、全国の自治体の中でも先進的な取り組みとなっております。現在はデータとして埋設物事業者さんとの調整の中で関係者を限定した利用となっておりますが、国がプラットフォームで取り組んだり、他の自治体でも静岡県さんなどは同じような埋設物のデータ共有の取り組みを行っておりますので、そういった自治体と情報共有しながら、協力して、引き続きデータ公開範囲の拡大や、ユースケースの開発等に取り組んで、より有用性のあるものにしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

<村山座長>

どうもありがとうございます。それではマクニカの奈良岡様お願い致します。

<マクニカ>

マクニカの奈良岡です。今の各社さんからの意見の中でもMaaSについてご意見もいただきました。また、自動運転をどうするのかということも皆さんの心の中にはあると思います。いろいろな施策を進める中で意識しなければいけないのは、新しいことをしてどんどん発展させようという点も大事ですが、立ち返って、先ほど近鉄さんもおっしゃっていましたが、既存のサービスであったり、データプラットフォームワーキングの方でも既に整えてあるものもありますので、既に四日市にある資源をどう活用していくかということも引き続き心に添えながら実装に向かっていきたいと思います。

<村山座長>

どうもありがとうございます。それでは国土交通省中部運輸局の江川様お願い致します。

<国土交通省中部運輸局>

中部運輸局交通企画部の江川です。いろいろなお話ありがとうございました。思ったことが2点あります。一点目はフォローアップの市街地がこう変わったというところで、数値ですとか、工事の進捗状況というところを示していただきました。工事の進捗としてハード整備が一定進んできているところと、それに合わせて、歩行者の流量とか路線バスの利用者数も増えているという定量的な効果がデータとして示されました。こういうハード整備をきっかけに歩行者が増え、四日市さんとしてウォークブルなまちづくりを進められているので、ぜひ引き続き歩行者にとっていい環境を提供し、自家用車ではなく公共交通などを使ってどう市街地に来てもらえるかという点はぜひ引き続き模索していただきたいと思います。

二点目は、今回の報告としていろいろ新しいことをどんどんやられているというところで、今お話にもありましたけども、やはり新しいことをやるという時に、振り返りというものがかかなり重要になってくると思います。新しいことをやってちょっとうまくいかなかったというところがあれば、内部、関係者で是非包み隠さず共有し、悪い点を少しずつでも改善していくような議論をしていただけるといいかなと思いました。

<村山座長>

どうもありがとうございました。それでは最後に副市長荒木様からお願いします。

<荒木副市長>

ありがとうございます。まず一点目が本市事務局から説明させましたように令和8年度で実行計画が終わって、一年間延長させていただきたいということで、また忌憚のないご意見をいただきながら事業を進めていきたいと感じています。本市は中心市街地再開発プロジェクトということで中央通りの再編事業、新図書館の整備、自動運転の運行など令和10年度ぐらいの完成を見込んでいます。それと同時に、JR四日市駅前に大学の誘致をし、令和14年度開学を目指して来年度から基本設計に取り掛かっています。これらのプロジェクトが進行していきますと、皆様からご意見いただきましたように、状況が大きく変化すると思います。従いまして、それに基づいて使い方ややり方を変えていかないといけないことも生じてきますので、皆様からご意見をいただきながら取り組んでまいりたいと考えてございます。

もう一点は先ほど申しましたように、市民に対して四日市の街がこう変わっていくということを、訴え続けていくということです。今回、ビフォー・アフターという形で報告していただきましたけども、街の姿もどんどん変わっていきます。例えば来年の6月には、近鉄さんの駅舎から円形デッキを結んで歩行者が通っていただけるように変わっていくので、毎年度市民の方に訴えていくことが重要だなと感じています。今後とも引き続きご意見いただきますようお願い申し上げます。

<村山座長>

皆様ご発言ありがとうございました。それでは、本日予定しております議題は以上となりますので、進行を事務局へお返しいたします。本日も議事進行にご協力頂きましてありがとうございました。

<進行>

村山座長ありがとうございました。それでは、全体を通してご参加頂いております先生方からコメントを頂ければと思います。最初に松本先生からお願いできますでしょうか。

<松本先生>

名城大学の松本でございます。ご報告ありがとうございました。改めてこの実証期間3年間の成果がよくわかって、本当にいろんな成果が出てきたなと思って感心しております。そんな中で最後、荒木副市長が言われましたが、もちろんこの実証において皆さん関係者の方々が一生涯懸命頑張られて成果が出てきたわけですが、一生懸命やってきた一方で、市民の方がやはりどう受け止めているのかなというのが気になっています。もちろんこれからこう変わっていったということを情報発信し続けたいといけませんが、ちょうどこの実証が終わったぐらいの段階で、一度市民の方々に聞く機会があってもいいのではないかという気がしております。そういう意味では、いろんな取り組みがあってどれぐらい認識されていて、どんな期待がされていて、あるいは何を改善していかないといけないのか。受け止める側の気持ちとか、その辺も捉えていかないといけない段階かなという気はしております。

それから自動運転ですけど、これまでの実証実験でだんだんいろんな課題が解決されてきたなと思っておりますが、令和9年あるいは令和10年の実装に向けていくと、まだ解決しないといけないものがあるなと思ってます。そういう意味で、この段階ぐらいで、令和10年に向けて何をやっていかないといけないのかという点を、戦略をしっかりと練りながら計画的に取り組んでいかないといけません。特に、いわゆるレベル4の自動運転として取り組むべき内容と、乗り合い交通として取り組むべき内容というのは、だいぶ違ってくると思います。我々が期待しているのはやはり乗り合い交通としての自動運転ですので、その点でクリアしないといけない課題を今一度明確にさせていただいて、計画的に実装に向けて進めてもらうというのがいいかなという気がしております。

それからデジタルインフラ台帳、素晴らしいと思っています。本当に中央通りに関しては、こういった台帳ができて、今後のいろんな工事等々で工数が6割削減できるということであれば、この人手不足の中で大変素晴らしいなと思っています。他の自治体への展開という話をされておりましたが、同時に四日市市内の他の路線への展開というのをぜひ進めてほしいと思っています。今ちょうど一号線で地下を掘っている部分がありますので、国道になってしまいますが、そういった部分にも展開していただいて、四日市市内に横展開していきながら、四日市市内はこのデジタルインフラ台帳がスタンダードという方向になっていくといいかなと思いました。

いずれにしても、この3年間の実証期間で素晴らしい成果が出てきました。さらに今後も引き続きということですので、皆様方ご協力しながら、より高い成果が得られることを期待したいと思います。

<進行>

松本先生ありがとうございました。続きまして有賀先生、コメントをお願いできますでしょうか。

<有賀先生>

早稲田大学の有賀でございます。取り組みのご報告、全体的な進捗、それぞれのワーキングの中での積み重ねられた実績、合わせてとてもいい成果が積み上がってきたなと率直に感じております。ありがとうございます。

最初にご説明(資料4の4ページ)があったように、スマートリージョン・コアの大きな目標として、「都市軸と新たな『市(賑わい)』の創出」が掲げられていて、そこに非常に楽しいなポンチ絵、俯瞰的な漫画的な絵があったかと思えます。あの絵を見ると、本当に4つの将来像「交通利便性が高く歩きたくなるま

ち」「健やかでかつ賑わいのあるまち」「快適で安全に生活できるまち」「データ利活用によるサービス提供、イノベーション創出」、こういうものが本当に実現していく未来像が、この絵に描かれているような楽しい中心市街地になっていくんだなということをようやく具体的に想像できるようになってきた、そこまで積み上がってきたかなという感じがしています。実行計画として枠組みを定めて、12の取り組みは実験的なものも含めて事業として進めるという、まさに計画と事業をうまくつなげるというのが、このスマートリージョン・コアの大きな枠組みでもあったと思いますが、それがあと1年続くということですが、やはりここまで積み上がってきたからこそ次の課題が見えてきたかなと思います。

一つはこのスマートリージョン・コアの目標とする将来の街のポンチ絵に出てくるように、今度はもう少し市街地側の立体的な機能、用途、つまり都市機能が集積していく中心市街地の中で、既存の建築やインフラストックというものを考えるべきではないか。中央通りにおいては外科手術をして大きく変えて、その周辺のエリアについても、荒木副市長からお話がありましたように、図書館整備やJR駅の方で拠点的な事業を行うことで大きく変えていく。けれども、その周りに広がる市街地の面的なところでは、むしろ外科手術をするというより体質改善をしていく。その時に当然ながら市街地というのは立体ですから、2階だとか3階だとか4階だとか、あるいは上層階の小さなスケールも含めて、用途混在とか、新しいシェア型の空間利用の仕組みとか、そんなものが出てきた時に、初めて新しいイノベーションの取り組み、活動が実際生まれてくるのではないかと感じます。そういったものをモチベーションとして動機付けるような意味でも、このスマートリージョンの様々な取り組みは、街の体質改善を進めていく上での大きな処方箋になると思います。

今年1月14日に国交省都市局さんが主催された「マチミチstudy現地勉強会in四日市」があって、ここでも市外からも非常に多くの参加者が集まれて、中心市街地の中央通りの大きな外科手術、空間の再編整備を起点として、これからの中心市街地がどのように変わっていくのか、といったことをいろんな観点から議論をしたのですが、新しい空間の使い方とか、市民や利用者がいろんな提案をしていくということが大きな議題になりました。一方で、具体的な民間側の取り組みという意味では、四日市一番街商店街の中にアピカさんが今年1月5日に「ヨッカド」をオープンされたのですが、シェア型のオフィスとか、市民が使えるようなスペースを棚貸しするような、新しいシェア空間、既存建物を活用して新しい使い方を提案するようなものが、民間側でも動き始めたと思います。こういった動きは、スマートリージョン・コアの取り組みや中央通りの再編整備のハード事業も大きく影響していると思います。だから、そういう意味で新しいイノベーションの取り組みが既存のストックを利用しながら生まれてくるという、当初狙っていたようなことが少しずつではあるけども、周辺の面的な市街地の方でも動き出している。これをさらに加速させていくようなことを新年度、先ほど令和9年ぐらいまでというお話がありましたが、そこに狙いを定めて目標として具体化させていき、それをモチベーションとして民間側、地権者さん、所有者さんが動きやすくなれるように、情報PRも含めて、枠組みをさらに加速させていくことが必要と思いました。そういった意味でもかなり成果として積み上がってきたというのが率直な感想です。ありがとうございました。

<進行>

有賀先生ありがとうございました。最後に村山先生、コメントお願いできますでしょうか。

<村山座長>

3年間で素晴らしい成果が出たということで、関係者の皆様にお礼申し上げたいと思います。スマートシティ関連で多くの事業で見られるのは、いわゆる情報技術とかモビリティ技術の皆さんと、それから私のような市街地整備とかインフラ整備をやっているグループが、やはり専門の領域が違うので、喋る言葉も違ってなかなかうまくコミュニケーションが取れずに終わることが多いのですが、四日市の場合はこの両者がちゃんと連携していいものができた素晴らしいモデルと思っています。

このスマートシティ事業もそうですが、中央通りのバスタも国の事業としての位置づけもありますので、やはりこれまでの経験を、いい面もうまくいかなかった面も含めて全国的に発信していく必要があると思います。も

ちろん市民の皆さんへの説明も重要ですが、国の事業であるということからしてもそういったことが求められると思いますし、日本国内だけではなく、国際協力の分野でも、このスマートシティの経験をどうやってアジアの成長している都市に展開するかという方向もありますので、ぜひ全世界にこの経験を発信できればいいなと思っております。今日はひとまずの区切りですけれども、取り組みとしてはまだスタートしたばかりなので、これからもこの協議会を中心にいろいろと議論、それから前向きにいろんなアクションを展開できればいいなと思っております。ありがとうございました。

<進行>

村山先生、ありがとうございました。本日、皆様からいただきましたご意見等を踏まえまして、来年度も引き続きスマート化の取り組みをしっかりと進めていきたいと思っております。また、来年度の幹事会につきましては、改めて事務局よりご案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。以上をもちまして、令和7年度第3回幹事会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

以上